

令和2年度 広島大学 2次試験前期日程 (数学問題)120分  
教育 (第一類・第二類 (技術・情報系)・第四類 (人間生活系))・  
経済 (昼)・歯 (口腔健康科学 (口腔保健))

問題 1 2 3 4

1  $m, p, q$  を実数とする. 二つの関数

$$f(x) = \frac{2}{3}x^2 + \frac{1}{3}x, \quad g(x) = \frac{1}{6}(x-p)^2 + q$$

を考える. 座標平面上の放物線

$$C_1 : y = f(x), \quad C_2 : y = g(x)$$

および直線  $l : y = mx$  について, 次の二つの条件 (i), (ii) が成り立つとする.

- (i) 直線  $l$  は原点  $O$  において放物線  $C_1$  に接している.
- (ii) 直線  $l$  は放物線  $C_2$  に接している.

直線  $l$  と放物線  $C_2$  の接点を  $A$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1)  $m$  の値を求めよ.
- (2)  $q$  を  $p$  を用いて表せ. また, 点  $A$  の座標を  $p$  を用いて表せ.
- (3)  $p \neq -1$  とする. 放物線  $C_1$  と放物線  $C_2$  の二つの共有点の  $x$  座標を  $p$  を用いて表せ.
- (4)  $p = 2$  とする. 放物線  $C_1$  と放物線  $C_2$  で囲まれた図形のうち,  $x \geq 0$  の範囲にある部分の面積  $S$  と,  $x \leq 0$  の範囲にある部分の面積  $T$  をそれぞれ求めよ.

**2**  $a, b$  を正の定数とする.  $0 < \theta < \pi$  を満たす実数  $\theta$  に対し, 平面上で, 次の三つの条件 (i), (ii), (iii) を満たす三角形 PAB, およびこの三角形と辺 AB を共有する長方形 ABCD を考える.

- (i)  $PA = a, PB = b, \angle APB = \theta$  である.
- (ii) 2点 C, D はともに直線 AB に関して点 P と反対側にある.
- (iii)  $AB = 3AD$  である.

三角形 PAB の面積と長方形 ABCD の面積の和を  $S$  とする. 次の問いに答えよ.

- (1) 辺 AB の長さを  $a, b, \theta$  を用いて表せ.
- (2)  $S$  を  $a, b, \theta$  を用いて表せ.
- (3)  $\theta$  が  $0 < \theta < \pi$  の範囲を動くときの  $S$  の最大値を  $M$  とし,  $S$  が最大値  $M$  をとるときの  $\theta$  の値を  $\beta$  とする.  $M$  を  $a, b$  を用いて表せ. また,  $\sin \beta$  および  $\cos \beta$  の値をそれぞれ求めよ.
- (4)  $a = 16, b = 25$  とする. また,  $\beta$  を (3) で定めた値とする.  $\theta = \beta$  のときの, 点 P と直線 AB の距離を求めよ.

**3** 1個のさいころを2回投げる. 1回目に出た目を  $a_1$ , 2回目に出た目を  $a_2$  とする. 次に, 1枚の硬貨を2回投げる. 1回目に表が出た場合は  $b_1 = 1$ , 裏が出た場合は  $b_1 = a_1$  とおく. また, 2回目に表が出た場合は  $b_2 = 1$ , 裏が出た場合は  $b_2 = a_2$  とおく. ベクトル

$$\vec{a} = (a_1, a_2), \quad \vec{b} = (b_1, b_2)$$

を考える. 次の問いに答えよ.

- (1)  $a_1 + a_2 = 7$  である確率を求めよ.
- (2)  $b_1 = 1$  である確率を求めよ.
- (3)  $\vec{b} = (1, 1)$  であったとき,  $\vec{a} = (1, 6)$  である条件付き確率を求めよ.
- (4)  $\vec{b} = (1, 1)$  であったとき,  $a_1 + a_2 = 7$  である条件付き確率を求めよ.

4 数列  $\{a_n\}$  を次の条件 (i), (ii) により定める.

(i)  $a_1 = 1$  である.

(ii)  $n = 1, 2, 3, \dots$  に対し,  $n$  が奇数ならば  $a_{n+1} = -a_n + 1$ , また  $n$  が偶数ならば  $a_{n+1} = -2a_n + 3$  である.

さらに, 数列  $\{b_n\}$  を  $b_n = a_{2n-1}$  により定め, 数列  $\{c_n\}$  を  $c_n = a_{2n}$  により定める. 次の問いに答えよ.

(1)  $a_2, a_3, a_4, a_5$  を求めよ.

(2) 数列  $\{b_n\}, \{c_n\}$  の一般項をそれぞれ求めよ.

(3) 自然数  $m$  に対して, 数列  $\{a_n\}$  の初項から第  $(2m-1)$  項までの和を  $T_m$  とする.  $T_m$  を  $m$  を用いて表せ.

## 解答例

$$\boxed{1} \quad (1) \quad f(x) = \frac{2}{3}x^2 + \frac{1}{3}x \text{ より } f'(x) = \frac{4}{3}x + \frac{1}{3} \quad \text{よって } m = f'(0) = \frac{1}{3}$$

$$(2) \quad \ell : y = \frac{1}{3}x \text{ と } C_2 : y = \frac{1}{6}(x-p)^2 + q \text{ から } y \text{ を消去すると}$$

$$\frac{1}{3}x = \frac{1}{6}(x-p)^2 + q \quad \text{整理すると } x^2 - 2(p+1)x + p^2 + 6q = 0$$

$\ell$  と  $C_2$  は接するから, 上の第2式の係数について

$$(p+1)^2 - 1 \cdot (p^2 + 6q) = 0 \quad \text{よって } q = \frac{1}{3}p + \frac{1}{6}$$

$$(3) \quad C_1 : y = \frac{2}{3}x^2 + \frac{1}{3}x, \quad C_2 : y = \frac{1}{6}(x-p)^2 + \frac{1}{3}p + \frac{1}{6}$$

上の2式から  $y$  を消去して整理すると

$$3x^2 + 2(p+1)x - (p+1)^2 = 0$$

$$(x+p+1)(3x-p-1) = 0$$

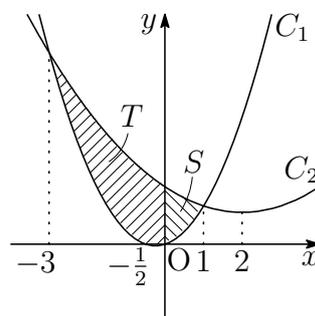
よって, 求める二つの共有点の  $x$  座標は  $x = -p-1, \frac{p+1}{3}$

$$(4) \quad p=2 \text{ のとき, (2) の結果から}$$

$$q = \frac{5}{6}$$

(3) の結果から,  $C_1$  と  $C_2$  の共有点の  $x$  座標は

$$x = -3, 1$$



$$-3 \leq x \leq 1 \text{ において } g(x) - f(x) \geq 0$$

$$\begin{aligned} g(x) - f(x) &= \frac{1}{6}(x-2)^2 + \frac{5}{6} - \left( \frac{2}{3}x^2 + \frac{1}{3}x \right) \\ &= -\frac{1}{2}x^2 - x + \frac{3}{2} = -\frac{1}{2}(x+3)(x-1) \end{aligned}$$

$$\text{よって } S+T = -\frac{1}{2} \int_{-3}^1 (x+3)(x-1) dx = \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} \cdot 4^3 = \frac{16}{3}$$

$$S = \int_0^1 \left( -\frac{x^2}{2} - x + \frac{3}{2} \right) dx = \left[ -\frac{x^3}{6} - \frac{x^2}{2} + \frac{3x}{2} \right]_0^1 = \frac{5}{6}$$

$$T = \frac{16}{3} - \frac{5}{6} = \frac{9}{2}$$

■

- 2 (1)  $\triangle PAB$  に余弦定理を適用すると

$$AB^2 = a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta$$

$AB > 0$  であるから

$$AB = \sqrt{a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta}$$

- (2)  $AD = \frac{1}{3}AB$  であるから

$$\text{長方形 } ABCD \text{ の面積} = AB \cdot AD = \frac{1}{3}AB^2 = \frac{1}{3}(a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta)$$

また,  $\triangle PAB = \frac{1}{2}ab \sin \theta$  であるから

$$\begin{aligned} S &= \frac{1}{2}ab \sin \theta + \frac{1}{3}(a^2 + b^2 - 2ab \cos \theta) \\ &= \frac{1}{3}(a^2 + b^2) + \frac{ab}{6}(3 \sin \theta - 4 \cos \theta) \end{aligned}$$

- (3)  $\cos \varphi = \frac{3}{5}$ ,  $\sin \varphi = -\frac{4}{5}$  とおくと  $(-\frac{\pi}{2} < \varphi < 0)$ , (2) の結果から

$$S = \frac{1}{3}(a^2 + b^2) + \frac{5ab}{6} \sin(\theta + \varphi)$$

$0 < \theta < \pi$  より,  $-\frac{\pi}{2} < \theta + \varphi < \pi$  であるから,  $S$  が最大なるとき,  $\theta = \beta$  であるから

$$\beta + \varphi = \frac{\pi}{2} \quad \text{ゆえに} \quad \beta = \frac{\pi}{2} - \varphi$$

$$\text{よって} \quad \sin \beta = \sin\left(\frac{\pi}{2} - \varphi\right) = \cos \varphi = \frac{3}{5}$$

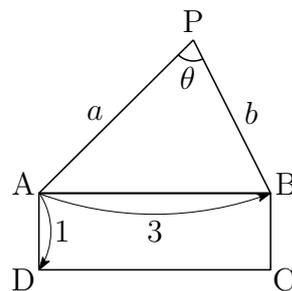
$$\cos \beta = \cos\left(\frac{\pi}{2} - \varphi\right) = \sin \varphi = -\frac{4}{5}$$

- (4)  $a = 16$ ,  $b = 25$ ,  $\theta = \beta$  のとき  $S = \frac{1}{2}ab \sin \theta = \frac{1}{2} \cdot 16 \cdot 25 \cdot \frac{3}{5} = 120$

$$AB = \sqrt{16^2 + 25^2 - 2 \cdot 16 \cdot 25 \cdot \left(-\frac{4}{5}\right)} = \sqrt{1521} = 39$$

点  $P$  から直線  $AB$  までの距離を  $h$  とすると,  $S = \frac{1}{2}AB \cdot h$  であるから

$$120 = \frac{1}{2} \cdot 39h \quad \text{よって} \quad h = \frac{80}{13}$$



- 3 (1)  $a_1 + a_2 = 7$  の場合の数の総数は、7個の○を一行に並び、間の6カ所のうち1カ所に仕切りを作り、区切られた○の個数を順番に  $a_1, a_2$  としたときの場合の総数に等しい。よって、求める確率は

$$\frac{{}_6C_1}{6^2} = \frac{1}{6}$$

- (2)  $b_1 = 1$  となるのは、次の事象である。

- 1回目に投げた硬貨が表である。
- 1回目に投げた硬貨が裏で、 $a_1 = 1$  である。

これらの事象は、互いに排反であるから、求める確率は

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{2} \cdot \frac{1}{6} = \frac{7}{12}$$

- (3)  $\vec{a} = (1, 6)$ ,  $\vec{b} = (1, 1)$  となる事象をそれぞれ  $A, B$  とする。(2)の結果から

$$P(B) = \left(\frac{7}{12}\right)^2$$

$A \cap B$  は、さいころの出た目が順に1, 6で、硬貨は、1回目は表・裏どちらでもよく、2回目が裏となる事象であるから

$$P(A \cap B) = \left(\frac{1}{6}\right)^2 \times 1 \cdot \frac{1}{2} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{6}\right)^2$$

よって、求める条件付き確率は

$$P_B(A) = \frac{P(A \cap B)}{P(B)} = \frac{1}{2} \left(\frac{1}{6}\right)^2 \times \left(\frac{12}{7}\right)^2 = \frac{2}{49}$$

- (4)  $a_1 + a_2 = 7$  となる事象を  $C$  とする。 $B \cap C$  は、 $\{a_1, a_2\}$  の組合せが  $\{1, 6\}$ ,  $\{2, 5\}$ ,  $\{3, 4\}$  の場合であるから

$$P(B \cap C) = \left(\frac{1}{6}\right)^2 \left\{ 2! \cdot 1 \cdot \frac{1}{2} + 2! \left(\frac{1}{2}\right)^2 \times 2 \right\} = 2 \left(\frac{1}{6}\right)^2$$

求める条件付き確率は

$$P_B(C) = \frac{P(B \cap C)}{P(B)} = 2 \left(\frac{1}{6}\right)^2 \times \left(\frac{12}{7}\right)^2 = \frac{8}{49}$$



$$\boxed{4} \quad (1) \quad a_1 = 1, \quad a_{n+1} = \begin{cases} -a_n + 1 & (n \text{ が奇数}) \\ -2a_n + 3 & (n \text{ が偶数}) \end{cases} \quad \dots (*)$$

$$\begin{aligned} \text{したがって} \quad a_2 &= -a_1 + 1 = -1 + 1 = \mathbf{0}, \\ a_3 &= -2a_2 + 3 = -2 \cdot 0 + 3 = \mathbf{3} \\ a_4 &= -a_3 + 1 = -3 + 1 = \mathbf{-2} \\ a_5 &= -2a_4 + 3 = -2 \cdot (-2) + 3 = \mathbf{7} \end{aligned}$$

$$(2) \quad (*) \text{ より} \quad \begin{aligned} a_{2n+1} &= -2a_{2n} + 3 = -2(-a_{2n-1} + 1) + 3 = 2a_{2n-1} + 1 \\ a_{2n+2} &= -a_{2n+1} + 1 = -(-2a_{2n} + 3) + 1 = 2a_{2n} - 2 \end{aligned}$$

$$b_n = a_{2n-1}, \quad c_n = a_{2n} \text{ より} \quad b_1 = a_1 = 1, \quad c_1 = a_2 = 0$$

$$b_{n+1} = 2b_n + 1, \quad c_{n+1} = 2c_n - 2$$

$$\text{したがって} \quad b_{n+1} + 1 = 2(b_n + 1), \quad c_{n+1} - 2 = 2(c_n - 2)$$

数列  $\{b_n + 1\}$  は、初項  $b_1 + 1 = 2$ 、公比 2 の等比数列であるから

$$b_n + 1 = 2 \cdot 2^{n-1} \quad \text{よって} \quad \mathbf{b_n = 2^n - 1}$$

数列  $\{c_n - 2\}$  は、初項  $c_1 - 2 = -2$ 、公比 2 の等比数列であるから

$$c_n - 2 = -2 \cdot 2^{n-1} \quad \text{よって} \quad \mathbf{c_n = -2^n + 2}$$

(3) (2) の結果から

$$a_{2n-1} = b_n = 2^n - 1, \quad a_{2n} = c_n = -2^n + 2$$

上の 2 式から、 $a_{2n-1} + a_{2n} = 1$  であるから、 $m > 1$  のとき

$$\begin{aligned} T_m &= \sum_{k=1}^{2m-1} a_k = \sum_{j=1}^{m-1} (a_{2j-1} + a_{2j}) + a_{2m-1} \\ &= \sum_{j=1}^{m-1} 1 + (2^m - 1) \\ &= \mathbf{2^m + m - 2} \end{aligned}$$

$T_1 = a_1 = 1$  であるから、上式は、 $m = 1$  のときも成立する。

$$\text{よって} \quad \mathbf{T_m = 2^m + m - 2} \quad \blacksquare$$